



「継～さらなる高みへ」50回目の卒業式のむこうへ

3学年主任 神保 亮介

ご卒業おめでとうございます。日々成長し、たくましくなっていく皆さんを、一番近くで見ることができ、とても幸せに思っています。西川中学校創立50周年という節目の年に、共に学べたことは私にとってもかけがえのない思い出になりました。

俳優の上白石萌音さんは、ドラマや舞台で大活躍していますが、実はとても「日本の古いものや言葉」を大切にしているそうです。

映画『ちはやふる』で競技かるたに打ち込む高校生を演じた際、彼女は千年以上も前から伝わる「百人一首」の世界に触れました。そこで彼女が感じたのは、「古いもの、ずっと続いてきたものの中には、今の私たちを支えてくれる強い力があるということでした。

上白石さんは、常に謙虚で丁寧な言葉遣いをされます。それは、ただ礼儀正しいだけでなく、先人たちが築いてきた文化や、周りの人への敬意を「つないでいく」ことを大切にしているからです。彼女は「基本を大事にすること、これまでの積み重ねを信じていることが、自分を一番強くしてくれる」と語っています。

今年、西川中学校50周年の年です。先輩から受け継ぎ、皆さんがさらに磨きをかけてきた「伝統」があったはずですが、それは、挨拶だったり、一生懸命な掃除だったり、あるいは行事にかける情熱だったかもしれません。卒業して環境が変わると、これまでの当たり前が通用しなくなることもあるでしょう。でも、皆さんがこの西川中学校で身につけた「伝統」や「良い習慣」は、目には見えませんが、皆さんの心の中に「太い柱」として残っています。

伝統をつなぐということは、ただ同じことを繰り返すことではありません。これまでの教えを大切にしながら、そこに「自分らしさ」という新しい風を吹き込んでいくことです。高校へ行っても、この学校で学んだ誇りを忘れず、新しい場所であなただけの新しい伝統を築いていってください。



保護者の皆様、お子様のご卒業、おめでとうございます。この3年間、子どもたちは本当に多くの表情を見せてくれました。行事に全力で取り組む姿、部活動で流した涙、教室で見せる何気ない笑顔。その一つひとつが、私にとってもかけがえのない宝物です。反抗期や進路の悩みなど、ご家庭でも葛藤が多い時期だったかもしれません。それでも、毎日お子様を学校へ送り出し、背中を押し続けてくださった皆様の愛情があったからこそ、卒業の日を迎えることができました。

明日からはそれぞれの道へ進みますが、ここで繋がった縁が、子どもたちの人生を支える一助となれば幸いです。3年間、大切なお子様をお預けいただき、本当にありがとうございました。

生徒会引継ぎ式

2月2日の生徒朝会にて、生徒会引き継ぎ式が行われました。3年生の生徒会役員・専門委員長から2年生へ、これまでの歩みとともに大切な想いが丁寧に継がれました。スローガン「継ぐ さらなる高みへ」が示すように、温かな励ましの言葉とともに託されたバトンには、学校を想う強い願いが込められていました。学校の中心となり歩み続けてきた3年生の尽力に感謝するとともに、新体制の活躍がさらなる高みへつながることを期待しています。



新入生体験入学

先日、6年生を迎えて体験入学を実施しました当日は新生徒会役員が中心となり、事前の準備から当日の運営まで主体的に取り組みました。レクリエーションでは工夫を凝らして場を和ませ、校舎案内や授業見学でも相手の立場に立った丁寧な声かけを心がけるなど、その頼もしい姿が随所に見られました。小学生も緊張しながらも次第に笑顔が広がり中学校生活への期待に胸をふくらませている様子でした。春から同じ仲間として、ともに励ましながら歩んでいきたいと思えます。



新しい職員が着任しました

本校に新たに職員が着任しております。11月に教頭マネジメント支援員として神林史子さん、1月に事務職員として飯野美佐子さんが着任いたしました。飯野さんは事務主任渡邊雄樹さんが育児休業を取得しており、それに伴う代替職員となります。ご紹介が遅くなりましたこととお詫び申し上げます。

新たな体制のもと、引き続き円滑な学校運営に努めてまいります。今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。